



米の輸出の取り組み

令和8年2月5日

J Aいわみざわ 販売促進部門長 加藤 勉

JAいわみざわ沿革

JAいわみざわは隣接する5JA（岩見沢市・岩見沢幌向・北海北村・空知大富・三笠市）が、将来を考えた地域農業を築くためには組織の充実強化が不可欠と判断し、平成5年2月1日に新設合併によりJAいわみざわが誕生しました。

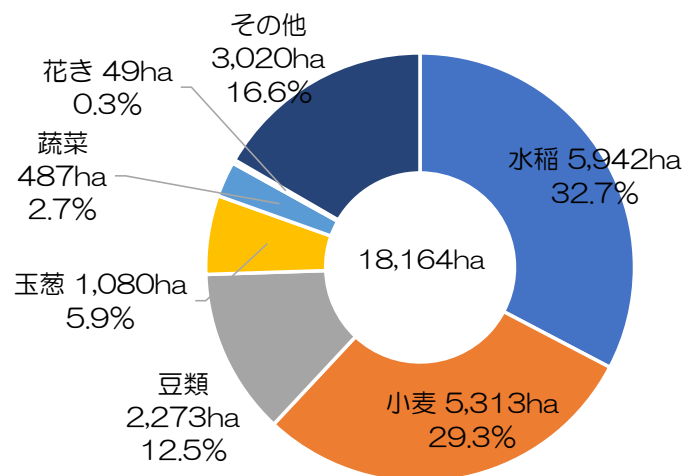
合併後も農業を取り巻く環境は、農業政策の転換と国内農畜産物の産地間競争等により、一層厳しさを増し、JAの産地形成機能と組織基盤を強化するために、隣接するJAくりさわ町とさらなる飛躍に向けた協議を進め、平成13年2月1日の合併により新生JAいわみざわが誕生しました。



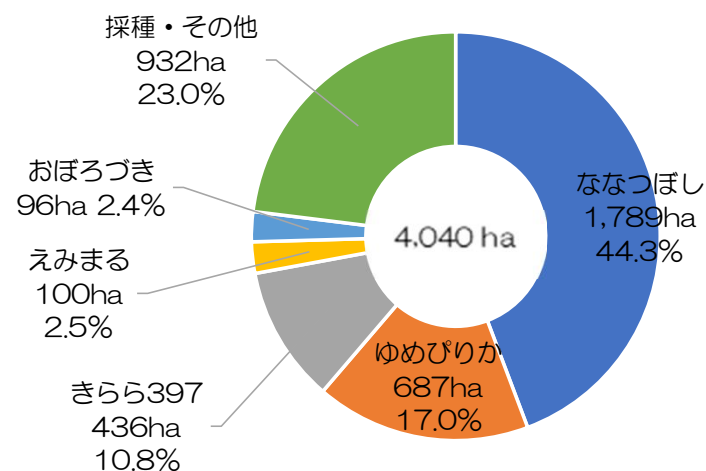
JAいわみざわ地域の概況

JAいわみざわ地域は、石狩川沿いの東に位置する広大な平坦地にあり、石狩平野の中央部にあたるこの地域の北西部は、泥炭地のため客土による土地改良を進め米の大産地となりました。タマネギは明治34年頃から栽培された記録があり、古い歴史のある産地です。昭和50年代からは米の生産調整による転作作物として小麦・大豆・カボチャ・ハクサイなどの野菜や花き、果樹などの農作物も多種にわたって生産しており、札幌市や新千歳空港まで1時間以内と利便性のある商流・物流に適した地域となっています。

○経営耕地面積（令和6年）



○米品種別作付面積（令和6年）



JAいわみざわ輸出用米取組推移

年度		内容	数量(t)	面積(ha)	戸数
2016年	平成28年	直播品種にて国内輸出専門商社Aと試験的に複数年契約スタート	1	1	5
2017年	平成29年		60	13	5
2018年	平成30年	作柄不良による収穫量の減少	136	28	8
2019年	令和元年		138	25	11
2020年	令和2年	「ななつぼし」にて国内米卸Bと複数年契約スタート	146	26	6
2021年	令和3年		146	26	6
2022年	令和4年		146	26	6
2023年	令和5年	海外マーケット拡大	274	49	6
2024年	令和6年	主食用米の米価高騰	640	114	6
2025年	令和7年	//	957	167	51

J Aいわみざわ輸出用米流通フロー図

国内商社A (香港、シンガポール、台湾、ハワイ)



国内米卸B (香港、豪州、米国等)

パターン1



パターン2



輸出に取り組むに当たっての不安、疑問、苦勞した点

- 水稻栽培技術の方向性を鑑み『直播品種』での契約締結をしたが、契約数量を履行できる収穫量となるのかが不安であった。
- 北海道の水稻慣行栽培基準で栽培して残留農薬基準等、大丈夫なんだろうか．．．
- 主食用米の価格高騰に伴う輸出用米契約解除の申し出。
- 主食用米の価格高騰に伴う契約単価の価格交渉。



輸出用米の生産にあたって重要ポイント、工夫ポイント

- 輸出用米の取組拡大を目論むのであれば、慣行栽培で安定した収穫量と品質の確保が必要。
- 輸出国による残留農薬基準をクリアするために雑草対策リスクの低い圃場を選定。

輸出用米等に取り組むことによる経営の安定化、経営の影響等

- 国内の米需要減少による価格変動リスクを軽減し、新たな販路の確保と需要に応じた生産を行うことで、持続可能な水田農業となり安定収入に繋がると考える。



生産者との契約方法、生産者への理解の方法、今後の展望 ①

- 生産の目安、遵守についての説明
- コメ新市場開拓等促進事業(旧水田リノベーション事業)受付時から継続的に輸出用米等の販売動向に伴う、交付金を含む10a当たりの試算表を作成、活用した取組み推進



生産者との契約方法、生産者への理解の方法、今後の展望 ②

【輸出用米】収入試算（参考値）

搬入施設			半乾施設		主食用米(参考)
契約年数			単年	複数年	玄米
産地交付金地域枠	20,000円	円/10a	20,000	20,000	/
旧水田リノベ	40,000円				
新市場開拓米作付助成		円/10a	20,000	20,000	
省力化・低コスト化助成		円/10a	15,000	15,000	
高度省力化・低コスト化助成		円/10a	5,000	5,000	
複数年契約		円/10a	0	10,000	
交付金計		円/10a	60,000	70,000	
旧水田リノベの場合	+20,000円		80,000	90,000	

収入試算（旧水田リノベの場合）（一般品種：572kg/10a(行政基準)）にて試算

収量	kg/10a	572	572	572
交付金	円/10a	80,000	90,000	0
品代	15,000円/俵	143,000	143,000	190,666
収入計	円/10a	223,000	233,000	190,666

※主食用米の品代単価は20,000円/60kgで試算

1俵あたり単価	23,392	24,441	20,000
---------	--------	--------	--------

生産者との契約方法、生産者への理解の方法、今後の展望 ③

- 生産者が需要に応じた水稻の生産に継続的に取り組めるよう、主食用米をはじめ、新規需要米等、意欲ある生産者が自らの経営判断で選択できるように、需要に応じた用途別生産による水田収益力強化の取組を進める。
- 安定かつ継続的な取り組みとなるよう、海外取引先の産地視察等、生産者との交流機会の計画をする。
- 2027年（令和9年産）の輸出用米取組数量目標として1,600トンを目指す。



ご清聴ありがとうございました。

いわみざわ農業協同組合

本所／北海道岩見沢市桜木1条1丁目1番地

E-mail: info@ja-iwamizawa.or.jp

TEL (0126) 25-2211



HP



Instagram



アプリ

